

6. 岐阜県の史跡と名勝

岐阜公園

(市電公園前下車)

金華山の西麓にあり、北端は長良の清流に接し、昔岐阜城主居館の跡で千畳敷と称する館跡を包容する一帯の大自然境を併せ広大なる園域を有する。彼の「板垣死すとも自由は死せず！」板垣退助が遭難の時囁語したのはこの地である。

金華山 (岐阜城跡)

(市電本町下車)

海拔 338.5 米北は断崖長良川が激しく足下を洗い、西及び東面亦急坂絶壁多く攀じ難い。南方は濃尾の山川風物を一時に収め得る。山頂に城跡あり、建仁元年に二階堂行政初めて要塞を構えたと伝え、天文八年斎藤道三ここに修築し、永祿十年織田信長これに移居して富民を招きて岐阜を開いた。

長良川の鵜飼

(市電長良橋下車)

長良の清流と金華の翠峰とは岐阜の象徴ともいふべく、昔芭蕉翁長良河畔の客となりこの山水をめめて十八楼記をものし「瀟湘の八景・西湖の十勝を兼ね」と称賛した。今や鵜飼の奇観はこの名勝と共に広く内外に宣伝せられている。鵜飼は毎年 5 月 11 日より 10 月 15 日まで毎夜篝漁を行い満月(旧暦十五日の夜)又は出水、濁流の場合は休漁する。

名和昆虫研究所

(市電公園前下車)

岐阜公園の南隅にあつて、明治 29 年名和靖氏の設立に係り、昆虫博物館に蔵する昆虫の種類は 18,000、標本 300,000 日本文化の一大宝庫で、その名は世界にも知られている。

笠松競馬場

(名鉄本線笠松駅下車徒歩にて 2 分)

美濃八景随一といわれる奈良津公園の一画を占め風光絶佳の地にあり。諸設備完備し 10,000 人を収容の観覧席を有して、その売上成績は全国地方競馬の最高線を驀進しつつある模範競馬場である。

油島千本松

(海津郡大江村近畿日鉄多度駅より 1 里)

木曾、揖斐、長良の三大川湊合するところにあり、宝歴三年幕府の命ずる処により薩摩藩士の築き上げた治水工事の最難所油島締切の記念松樹である。この工事たるや美濃・尾張・伊勢の三国に渉り東西 4.5 里、南北 14.5 里に及ぶ極めて広闊な地域の合流地点に分水堤を築き水勢を緩和せんとするもので、その困難は予想外であつたが百折不撓遂にこの難工事を竣工せしめた。而しそのため藩に莫大な負担をかけた責任を負い総奉行の平田靱負以下 49 名は従容屠腹した。世にこれを薩摩義士と称し、治水神社に祀り、その功績を不朽に伝えている。

養老公園

(近畿日鉄養老駅より 10 丁)

養老山麓にあり、園内広潤山側を占めているので美濃平野を展望し、春は桜、秋は紅葉、冬は赤梅あり、四季共に遊客が多い。園内には有名なる養老の滝がある。

関ヶ原古戦場

慶長五年秋の激戦地である。東に南宮山が横たわり、近江境の連山と伊勢街道を挟む。北は相川山の山波、笹尾山に至り、天満山と共に北国街道を挟み、西南に松尾山があつて中仙道を扼す。この間約一方里、実に四通発達の要衝にして扼塞要害の地である。現在東西両軍の各陣址には探訪者の便を図つて石標が建ててある。

大山椒魚棲息地

(越美南線相生駅より 2 里)

郡上郡和良村、西和良村と弥富村に在り。大山椒魚は世界中にも稀有の動物で両棲類最大の有尾類に属し、体長普通 60 ㎝内外で四肢を有し尾は短くて鱗状を為している。現在地球上にその姿を止めているのは日本と中華民国のみである。昭和 2 年 4 月に天然記念物に指定せられた。

粥川鰻棲息地

(越美南線下川駅より 10 丁)

粥川は長良川の支流で、大小多数の鰻群棲し、他の河川においては到底見ることが出来ない。古来村民は鰻を保護すること厚く、これを捕える者は神罰を受けるといわれていて是れが粥川の鰻の殖繁する原因となつた。昭和 13 年 12 月に天然記念物に指定せられた。

木曾川の勝景 (日本ライン)

(高山線太田、坂祝、鶴沼各駅より)

木曾川は信濃の深谷を流れて本県内に入り、恵那峡の勝景をなして更に西流し土岐、可児両郡と加茂郡の境を画する峽流となり、至るところ兩岸の風光まことに賞すべく、殊に太田町より鶴沼町地先に至るまで約三里の急灘は俗に日本ラインと称し、奇巖河中に聚立して風景絶佳である。

恵 那 峡

(中央線大井駅、中津川駅より)

木曾川、恵那の山谷を流れるや水勢急奔、迂余曲折して豁いよいよ深く、その景益々奇である。大木曾の急流も今や本邦最初のダム式大堰堤(長さ303米、高さ56米)の竣工により溪流忽ち変じて紺碧を湛え、ここに漫々たる一大湖の出現となつた。湛水さざ波三里、舟行に従い兩岸に屹立する幾百かの大奇岩、雄怪石は神技鬼斧の妙を極め、大自然のなせる美は実に天下の奇観である。舟を捨つれば天然記念物奇岩傘岩、千畳岩、紅岩の妙観もあり、亦ダム堰堤より落下する幾十丈の飛瀑は壯絶比なくナイヤガラを連想させる。

中 山 七 里

(高山線金山、焼石、下呂各駅より)

飛驒街道を金山橋を渡つて益田郡に入れば、道は益田川の峽流に添う。この辺り中山七里と称し山水の美を以て聞え、殊に秋紅葉の時期に至つては絢爛華麗な一大絵巻を展開する。

下 呂 温 泉

(高山線下呂駅下車)

益田川の清流にのぞみ山紫水明の自然境に囲まれたこの温泉は、村上天皇の時代天歴年間の開泉に係り、華氏120度を保持し、硫黄、鉄鉱、塩分を含有し胃腸病、リウマチス、神経痛に特効あり、高山線の便開けてより遊覧者日々に増加を見ている。

高 山 陣 屋 址

(高山線高山駅下車)

昔飛驒国主金森氏が下屋敷としていた所で、当時は2,484坪余あつたと謂う。元禄五年徳川幕府はこれを没収して飛驒代官の治所に当て高山陣屋と称した。以来慶応4年まで177年間の陣屋であつた。明治元年廃藩置県と共に高山県庁舎となり、その後郡役所、支庁舎を経て今は飛驒地方事務所庁舎となつている。現在の建物は文化13年に改築せられ、その後数度の変遷により敷地、建物等大いに縮小せられたが、表門、玄関、奥庭並びに郷倉の大部分はなお旧態を止めている。昭和4年史蹟に指定せられた。

飛 驒 国 分 寺

(高山線高山駅より5丁)

高山市の西郊に在つて医王山国分寺という。本堂は足利時代の古建築で重要文化財に指定せられている。本尊の薬師如来坐像、観世音菩薩立像共に藤原時代中期の作といわれ重要文化財である。又三重の塔は元和9年の建立になり国内唯一のもので寺観の美を添えている。

衝 上 断 層

(高山線猪谷駅より)

高原川に添つて南に上ること1里余り、千貫橋に至る間に見られるもので、兩岸の絶壁20間、古生代の飛驒片麻岩と中生代の侏羅紀手取層からなつている。衝上断層の成因は日本群島成生の際強大なる圧力が当該地層に働き旧期岩層が漸成岩層へ「ずり上つた」もので本邦稀有の好露出といわれている。

中部山岳国立公園 (日本アルプス)

(高山線下呂、小坂、久々野、高山、猪谷各駅より)

北は朝日岳より始まり南は乗鞍岳に至る北アルプスはわお国における最も代表的な山岳公園として海外に知られ、その規模において歐洲アルプスに及ばずといえども崇高な峻嶺、神秘的な豁谷は壯美と優美を併せ備え、アルピニストの搖籠でもあり、心の故郷でもある。岐阜側から登るに便利な山は乗鞍岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳、双六岳、黒部五郎岳などがあり、これらは高山市から手にとる如く指さすことが出来、その夕映えの美しさは何人をも胸を打たしめるものがある。とりわけ乗鞍岳へは高山市から海拔10,000尺の頂上に近い鶴の池畔までロマンスカーが通い登山者の便が図られている。

放 牧 場

(海津郡海西村、東江村、羽島郡桑原村、畑津村、川島村、稲葉郡鏡島村、大垣市等)

本県には木曾、長良、揖斐の三大河川があつて、この河川敷、堤防の面積は4,700町歩で、草種を改良し3,000頭の乳牛の増殖を図ろうとしており、更に和牛、山羊、綿羊等の放牧飼養が盛んに行われている。